

アルゴリズムック・デザイン —実践とこれから

企画：アルゴリズムック・デザイン小委員会

2016 年 12 月 8 日（木）12:40～14:40

建築会館ホール

主旨

アルゴリズムック・デザインに関連する最新の研究・実践報告と展望を議論する。委員外からは、360° Book などの建築に限定されない作品群をデジタルデザインにより可能にし、領域横断的に展開してきた大野友資氏による招待講演と、柔軟な素材で形態創生に挑戦する隈太一氏による報告を行う。

1. 主旨説明（12:40-12:45）

瀧澤重志（大阪市立大学，アルゴリズムック・デザイン小委員会主査）

2. 研究・実践報告（12:45-14:05）

極大凸多角形集合による平面被覆問題の解の全列挙と最適解の抽出手法

瀧澤重志（前掲）

可展面を接続した自由曲面シェル構造の形状最適化

○崔 京蘭・大崎 純・中村奎吾（京都大学）

Architectural Softness

隈 太一（フリーランス）

デザインツールの一元化と自動化 —FLUX とプログラミング言語の併用システム—

○竹内篤史・城所竜太（Ove Arup & Partners Japan Limited）

3. 招待講演（14:05-14:40）

デジタルデザインの射程

大野友資（DOMINO ARCHITECTS）

大野友資氏のプロフィール

1983 ドイツ生まれ

東京大学建築学科卒業、同大学院修士課程修了

2008 カヒーリョ・ダ・グラサ・アルキテットス

2009～2016 ノイズアーキテクツ

2016 DOMINO ARCHITECTS 設立

現在、東京藝術大学非常勤講師

一級建築士。建築を中心としてインテリア、プロダクト、インスタレーションなどの領域を横断しながら活動している。